

## H13b 銀河面サーベイ観測で発見された Ultrasoft Transient X-Ray Source

山内茂雄 (岩手大人社)、中村絵美 (岩手大教育)

銀河系内の X 線天体の探査、銀河円盤領域に存在する広がった X 線放射の研究、等を目的として、「ぎんが」衛星を用いて銀河円盤ならびに銀河中心領域のサーベイ観測 (スキャン観測) が行われ、多数の X 線天体が検出された。この観測において、柔らかい X 線スペクトルをもつランジェント天体 (Ultrasoft Transient X-ray source) が銀河バルジ方向に発見された (Makino 1988, IAUC 4571; Yamauchi and Koyama 1990, PASJ, 42, L83)。今回、この天体について再解析を行ったので、その結果を報告する。

「ぎんが」衛星の姿勢データの最終版を用いて天体の位置の再決定を行った。その結果、誤差領域の中に、Mir-Kvant 搭載の TTM 検出器で発見された KS 1732-273 (1989 年検出)、および ROSAT 全天サーベイによる 1RXS J173602.0-272541 (1990 年検出) が位置しており、これらが「ぎんが」衛星で検出した天体と同一天体であると結論される。

TTM および ROSAT による天体位置情報を用い、スキャン観測のデータを 1 チャンネルずつ fit することで、この天体の X 線スペクトルを決定し、モデルフィッティングを行った。黒体放射モデルによる温度は 0.5-0.6keV、multicolor disk モデルによるディスク内縁の温度は、0.7-0.8 keV 程度であり、これらはブラックホール候補天体で見られるモデルパラメータと良く一致する。